

よこ づな とち にしき
横 綱 栃 錦

平成2年(1990)12月25日、横綱栃錦の等身大のブロンズ像がJR小岩駅に建立されました。小岩に生まれ、小岩で育った栃錦の一生を追ってみます。

生い立ち

栃錦は本名を大塚清おおつかきよしといい、大正14年(1925)2月20日、小岩村の傘職人の家に、8人兄弟の次男として生まれました。家が貧しかったために、小学校に入るまで、千葉県行徳ぎょうとくの母方の伯父の家にあずけられました。

下小岩小学校時代から運動神経は抜群で、野球・陸上競技・水泳・相撲などの選手として活躍し、特に相撲においては、東小岩の善養寺ぜんようじで行われる大会でいつも優勝していました。

春日野部屋入門

小学校を卒業後、工場に勤めましたが、近所の人たちにすすめられ、13歳で春日野部屋かすがのに入門しました。昭和14年(1939)の1月場所、本名の「大塚」で初土俵を踏み、同19年(1944)5月、新十両になって「栃錦」と改名しました。しかし、第二次世界大戦の激化により、同年に徴兵され海軍に入隊、翌年9月に復員します。昭和22年(1947)6月に新入幕しんにゅうまくを果たし、同27年(1952)9月に関脇で初優勝。同29年(1954)の夏場所と秋場所を、大関で連続優勝。その翌年1月場所で第44代の横綱となり、小型ながら強い押しに加え、きれのある投げを武器に初代若乃花わかのはなとともに「栃・若時代」を築きました。



慈善大相撲で土俵入り(下小岩小学校)

昭和35年(1960)5月に引退し、年寄「春日野」を襲名。同49年(1973)からは日本相撲協会理事長もつとめ、後進の指導や両国国技館の建設に尽力するなど角界に大きく貢献しましたが、平成2年(1990)に64歳で亡くなりました。

なお横綱在位中の昭和33年(1958)の冬、母校の下小岩小学校が焼失しました。その際、校舎建築資金の不足を知った栃錦は、母校の校庭で慈善大相撲を行い、その収益金を学校再開資金の一部として寄付しています。

＜幕内での成績＞

- ・幕内在位：52場所(内、横綱28場所)
- ・幕内通算成績：513勝203敗1分32休 勝率. 716
- ・横綱通算成績：292勝84敗32休 勝率. 777
- ・幕内優勝：10回

「東の横綱」：善養寺「影向の松」

昭和55年(1979)3月から翌年9月にかけて、樹齢約600年、繁茂面積日本一といわれている江戸川区善養寺の「影向の松」と、香川県の「岡野松」(平成5年に枯れて現存せず)が日本一の名松を競いました。

栃錦(春日野親方)は日本相撲協会の理事長になっていましたが、「双方の枝ぶり、風格、相ゆらず、それぞれを東西の横綱に」と、推挙しました。相撲の行司の最高位である立行司木村庄之助の軍配によって「双方とも、日本一の名松」として引き分けられました。



「影向の松」に網締め

万福寺

春日野理事長の菩提寺である万福寺(東小岩二丁目)の正面玄関に、歴代横綱の手形の額があります。鏡里から三重ノ海まで横綱14人の手形は、春日野理事長の相撲界での指導力と人望の厚さをよくあらわしています。

名横綱・名理事長として、昭和の相撲界に大きな足跡を残した栃錦は、江戸川区の誇りです。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)